

第1回検討会における委員の主な意見 及び論点等

第1回検討会の委員の主な意見及び論点等

委員からの意見	論点等
○ 海でレクリエーションを行う都市住民が漁業者とのトラブルや事故を起こしたりしており、漁業や海の怖さについて啓発・普及するための支援をお願いしたい。	◇ これまでも、国民の生命・財産の保全や地球環境保全にかかる活動において、啓発・普及費を支援。引き続き、支援を実施。
○ 多面的機能のうち、居住や交流の場の形成や地域社会の形成・維持も重要な機能である。	◇ 資料2の2のとおり
○ 本事業による活動を効果的に行うため、活動組織に対するサポートの充実・強化をお願いしたい。	◇ 効果的な活動が実施できるよう、引き続き、支援事業を実施
○ 漁村という地域コミュニティを維持することは大事であり、このことは、水産物の供給という水産業の本来的な機能にも密接に結びついており、食料安全保障の観点からも国として漁村を維持するための支援が必要である。	◇ 資料2の2及び3のとおり

第1回検討会の委員の主な意見及び論点等

委員からの意見	論点等
○ 漁村が持つ文化のすばらしい価値は、外から来た人が漁村を訪れ、初めて認識するものである。漁業者のみの活動ではなく地域とのつながりを活発にするための取組とした方が良い。	◇ 資料2の2のとおり また、これまでどおり漁業者以外の参画を必須とする。
○ 漁村には過去からの地域の伝統文化があり、地域住民の団結につながるようなことに対する支援をお願いしたい。	◇ 資料2の2のとおり
○ 行政事業レビューで問題となった事例を採択しないような仕組みの検討が必要である。	◇ 活動指針において、採択基準を明確化する。地域協議会の採択が適切なものとなるよう、Q&Aやわかりやすい事例を紹介する。
○ 自然環境保全などは効果が説明しやすいが、社会資本である文化の継承の効果を説明するのは難しい問題である。資本が生み出すキャッシュフローのような効果が何かを明らかにすれば、国民に対し支援の必要性が説明できるのではないか。	◇ 今後の検討課題

第1回検討会の委員の主な意見及び論点等

委員からの意見	論点等
<p>○ 国だけでなく地方も負担を行うことが基本ではあるが、地方にはお金がなく地域の活力が落ちているため、負担を求めるとなると多面的機能の発揮の活動が低下するという悪循環に陥るのではないか。</p> <p>何らかの措置が必要であるし、支援メニューによって地方負担の濃淡があっても良いのではないか。</p>	<p>◇ 資料2の4のとおり</p> <p>(注)国と地方の財政事情を比べた場合、国の方が財政状況が悪いことにも留意</p>
<p>○ これまで活動組織を作り活動を行ってきており、地方負担が出せないところも可能な事業の進め方になって欲しい。</p>	
<p>○ 海難救助の対象者は地元の人ばかりではなく、漁業者は、事故が起きると漁業をやめて救助に向かっている。地方に負担を求めるとしてもなるべく負担を少なくして、事業が継続できるようにして欲しい。</p>	

第1回検討会の委員の主な意見及び論点等

委員からの意見	論点等
○ 地方負担を一律に決めるのは難しいのではないか。緊急度や重要性から見て、国がどこを手厚くサポートすべきか判断すれば良いのではないか。	◇ 資料2の4のとおり
○ 国以外の地方負担は財政状況も厳しく難しいと思われ、そういう方向ではなく、お金だけではない人的な労力という面でサポート体制が組んでいるかどうかを評価すると良いのではないか。	◇ 資料2の4のとおり 人的な労力面でのサポート体制も必要だが、これを地方負担にかえることは難しい。
○ 農業は持ち主が明確な土地で活動を行っているが、水産は海で活動を行っている。国が環境を守るべきではないか。農業と横並びを見るのではなく、農業と評価軸が違うことを説明してはどうか。	◇ 水産業・漁村の多面的機能の特徴を支援メニューや事業内容に反映する。

第1回検討会の委員の主な意見及び論点等

委員からの意見	論点等
<p>○ 海難救助については、そもそも救助を必要とする事故がない方が良く、事故があった方が点数が上がるような目標値はおかしいのではないか。</p> <p>直接的な救助ではなく、事故を未然に防いだ活動もカウントできるようにするべきではないか。また救命率、救助率の向上などを成果指標としてはどうか。</p>	<p>◇ 資料2の5の①のとおり</p>
<p>○ 藻場・干潟の保全など単年度で成果が上がらないものもあり、年度毎ではなくて対象生物の生活史を見て、複数年にわたるアウトプットによる定量化により、長期間見ていくことをお願いしたい。</p>	<p>◇ 資料2の5の②のとおり</p>

第1回検討会の委員の主な意見及び論点等

委員からの意見	論点等
<p>○ 活動組織、地域協議会及び水産庁の三段階の評価は手間もかかりどれほど機能しているのか疑問である。例えば、活動組織が互いにチェック、採点する仕組みなどが導入できないか。</p>	<p>◇ 資料2の6のとおり</p>
<p>○ 多面的機能は、もともとはWTO交渉などで農業での議論があり、外国にアピールするものであるので、成功事例や自分たちのアピールポイントの記入欄を設け、外国に向けてアピールできること、横展開が図られていることが記入できるようにしてはどうか。</p>	<p>◇ 自己評価の様式にアピールポイントの記入欄を設定する方向で検討 また、優良事例について、本事業のHP(ひとうみ.jp)で発信し、横展開を図る。</p>